

未来の長浜市を創造するまちづくり委員会

住民自治・行財政分科会 議事録

日 時	平成21年 7月15日 (水) 19:00 ~ 21:00		
場 所	木之本町役場 2階会議室		
議 題	住民自らのまちづくり・コミュニティ活動の推進について		
出席者	浅見信夫、押谷友之、東野 司、福嶋一夫、川西章則、西村和洋、 速水賢昭、小柳芳恵、落合武士、馬場鉄一、岡本 茂 (敬称略)		
市	分科会事務局 岩根理事、小川参事、武田主幹		
6 町	木之本町西村課長		
傍聴者	あり (○人) ・ <input type="checkbox"/> なし	報道機関	あり (○○新聞社) ・ <input type="checkbox"/> なし

【協議結果】

① 決定事項

- ・ 前回 (5月21日開催分) の議事録を承認。
- ・ 議事録の公開の形式は、他の分科会と整合性をとる。

② 次回日程とテーマ

- ・ 次回日程 8月11日 (火) 19:00～
- ・ 次回開催場所 「 高月町役場 4階D会議室 」
- ・ 次回テーマ 「男女共同参画社会の実現及び広域行政の推進について」

③ その他

◎市の他の所管課への要請等 (分科会事務局対応)

- ・ 長浜市自治基本条例について、6町住民への参画機会の付与に関する意見があったことを、市民協働課へ報告します。

【主な意見】 (要点筆記)

会 長	<p>前回の分科会(5/21)では、各地域の状況を理解しあい、これからの地域づくりについてお互いが共通の認識をもつ機会となった。</p> <p>お手元にある前回の議事録だが、公開にあたっては全体会に合わせ委員名を消す方針。その他、内容等での間違いや修正、付け加えたいこと、意見等があれば発言願う。</p> <p style="text-align: center;">＝ 意見交換 ＝</p>
A委員	委員は責任をもって発言するので、名前を消す、では公開にならない。
B委員	議事録の公開は、個人が特定できない方が発言しやすい。公表後の評価にも不安。今は他の分科会も名前を出さない方向であり、統一願う。
A委員	匿名で発言するのはおかしい。多種多様な意見がある事実が大切。自由闊達に夢を語るのが委員会の主旨で、様々な意見の交換は、委員会主旨にあう。
C委員	議員以外の方は、名前が出ることで意見を述べることに躊躇する。他の分科会と足並みを揃えてはどうか。
事務局	議事録は長浜市の市政情報コーナーに置く予定。ホームページに載せるかは、検討中。ただ当会議は傍聴可能で、名前も出ており、ある意味既に公開されている。
D委員	名前はない方が良い。

委員長	では、まとめます。議事録の委員名については、他の分科会と合わせることにします。議事録を承認してよいのか？ ＝ 全出席委員承認 ＝
事務局	次に、前回からの引き続きで、市の自治基本条例について事務局から説明願う。市は、9月議会で提案する方針。理由は、 ①策定委員会で2年間検討してきており、早期条例化を進めるもの。 ②平成22年度予算編成、政策推進に反映させる。 ③7月からパブリックコメントしており、市の制度上、最短でも3ヶ月要する。よって、1月1日合併後のパブコメでは、年度内制定に間に合わない。 ④今回延期することは、継続している市民自治の動きを停滞させてしまう。 なお、会議資料は、テーマに関する資料を準備し配布している。 ＝ 意見交換 ＝
A委員	7月のパブコメは、6町からの意見はとらないのか？
事務局	長浜市民に限らず、誰でも意見を言ってよいこととなっている。
E委員	基本条例の中に我々の意見は入らないのか？パブコメは誰でもよいと言うが、6町から意見を聞き9月議会に間に合うのか？
事務局	2年の議論を重ね、手続きに沿って進めている。合併後に不都合や修正箇所が出れば、条例改正の手続きを踏めばよい、というのが担当課の考え方。これは全ての事業で言えること。
E委員	条例改正などと難しくするより、時間を少しずらすだけ。合併で大きく事態が変化するのに、そのことを無視されることに違和感を抱く。
A委員	6町には積極的な投げかけをしたのか？機会の公平があったのか？
事務局	それは、いま長浜市が現在進行形で条例化するものや計画するものは、全て動いているが、一旦止めろという意味合いにとれる。
A委員	自治基本条例の性格から述べている。合併ありきである以上、6町住民の参加機会が与えられるべき。6町広報でパブコメ受付中の積極的な周知があってもよい。
事務局	担当課からは、6町担当者にも、この条例の説明をしたと聞いている。そこでパブコメについての説明は不明だが、明日、申し伝える。
F委員	住民自治を真剣に考えれば、市の担当課は6町に素案を示し、条例を9月にするので意見が欲しいとすべきだ。
E委員	この議論がパブリックコメントそのもの。委員会のまとめは、11月か12月だが、9月議会となると、この分科会が何の意味ももたない。
事務局	この会は、自治基本条例だけを論ずる会ではない。
E委員	我々は町の代表として、意見を述べ、また持って帰り述べている。その意見をないがしろにされては違和感を持つ。
B委員	住民自治が大切とするなら、条例制定に時間の猶予がほしい。
G委員	長浜市だけで条例を決めるのは民主主義に反するというが、まだ合併していない。長浜市が条例を運用され、合併後、不具合があれば変えればよいし、議員の皆さんがその為にいる。それに一般市民はパブコメの意味がわかりません。
H委員	合併は大きな変化で、このことを踏まえた検討はいる。パブコメ以外にも、様々な方法はある。条例提案は後にできる。今年度中に条例化という中で、できる限り6町住民の意見を聞いてはどうか。
E委員	条例制定にあたり権限や支援など、こだわっている部分がある。議員としてみんなに説得できるようにしたい。9月議会提案では、参加させてもらえてないと感じる。住民に話をし、少しでも不安をなくして、合併に向けてもらいたい。
A委員	“参加できていないような気分”が非常に重要。今後、合併をうまくやっていけるか基本的な部分。今回編入合併で、当然、長浜市に合わせてもらうが、自治基

<p>会 長</p>	<p>本条例は分科会でやるコミュニティー活動の基本。6町住民が参加したという意識が大切で、結果的に内容が変わらなくてもいい。</p>
<p>E委員</p>	<p>条例は全国から良い点を取り出しており、長浜らしさのある、かなりの住民の意見が反映された内容となっている。</p>
<p>B委員</p> <p>事務局</p>	<p>長浜らしさとは何か。そのような言葉に不信感を抱く。条文は見えていないが、長浜市にあっては湖北らしさの条例としてほしい。</p> <p>この条例は多くの自治体で制定済み。市の経過も知り、内容も申し分ない。ただ住民が参加する点に意義があり、住民自治を議論するうえでお願いしたい。</p> <p>市は、基本的にはお伝えした方針で動いている。</p> <p>しかし、できることはしたいし担当課にも明確に伝える。ただ、ここで述べられたことがそのまま直に市の施策に反映するという会でないことを理解願いたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>今後のテーマですが、合併基本計画に沿った形で進めたいと存じますが。</p> <p style="text-align: center;">＝ 出席委員承認 ＝</p>
<p>副会長</p>	<p>副会長から、各分科会の様子について伝えていただきたい。</p> <p>参加してきた分科会は教育と保健福祉の分科会。</p> <p>教育では、例えば1市6町の出生率、学校の統廃合、児童の学力の向上、高月学園基本計画について議論されていた。</p> <p>保健福祉では、地域特性に属した少子高齢化問題対応が話しあわれた。</p> <p>両分科会に出て思いましたのは、合併とは、結婚ではなく子育て。</p> <p>悪いところをたたくのではなく、いいところを大事に育てていく。それがこのまちづくり委員会の目的ではないのか、と感じました。</p>
<p>会 長</p>	<p>各地域の状況、特性、自慢を話していただき、今後どのように地域を活性化すべきか語りたい。</p>
<p>I委員</p>	<p>湖北町は、独自の地域協働社会を築くまちづくりに重点をおいている。国の補助で、農村丸ごと事業を立ち上げ、米や麦などの環境農業の代表者と話し、昨年コミュニティー活動を開始した。小学校の耐震設備で避難所を整え、小学校の運動場で訓練する等、防災知識を深めている。高齢者福祉としては、公民館を改造し高齢者サロンの環境を充実していきたい。また、まちづくり活動の支援目的で、3つの集落を中心に老人や子供を含む地域に活気がある世代を超えて集う場をつくりたい。さらに地域のイベントによる活性化として、昨年9月1日の八朔大祭で、若武者が多くの赤ちゃんを背負う「幡母衣武者行列」を20年ぶりに復活できた。尾上では、湖の魚の食をテーマに、地域の活性化につながるまちづくりを進めている。</p>
<p>会 長</p> <p>J委員</p>	<p>地域のシンボルをかかげることは大切だ。</p> <p>六荘学区は人口1万3千人で、小学校2、中学校2、新興住宅地や農村住宅地が混在する。4月から公民館の運営を、地域づくり協議会が指定管理者として受けた。“新川まつり”も地域づくり協議会が実施。参加型のまちづくりが最大のテーマで、仲間が増えることで違う視点とコミュニティが生まれた。</p>
<p>会 長</p>	<p>公民館が指定管理となると、地域が主体となったまちづくりがより重要であり、六荘を手本に、今後も活動に注目していきたい。</p>
<p>E委員</p>	<p>地域の祭り等は煩わしい一方、地域コミュニティーには欠かせない。この面が高齢化や合併で希薄化することを懸念する。また長浜以北では木之本に初めて総合型スポーツクラブが誕生。NPO 法人など立ち上げる動きもあるが、自治組織の腰は重く、地域の温度差もあり自立が遅れていると感じる。</p>
<p>C委員</p>	<p>地域づくり協議会2番手の南郷理市民は、公民館を建て直し、住民活動の拠点と</p>

したい。今までの何でも屋の行政は、財政赤字で期待できない。また、災害時、各戸別に対応できたことが、12万人都市では配慮できなくなるだろう。家庭や地域福祉をいかに守るか。その面を地域づくり協議会が担ない、また期待もし、応援すべきと考える。個々の福祉を守りつつ住民自治と行財政をいかに豊かにするかに焦点をあてたい。

- 会 長 コミュニティーの組織の維持と活動のためには相互負担が必要。
- B委員 人を集めたいということが羨ましい。我々の地域ではイベントにはほぼ全員が参加している。それでも参加者は少なく、山の荒廃が話題だ。地域の実態を、是非理解して欲しい。
- 会 長 長浜市の市街地と我々の地域との違いが相当大きい中で、どのようにまちづくりを進めるかが大きなテーマの一つ。
- B委員 高齢化率が31%で、うちの集落は中学生が1人だけ。“子供がいない”その寂しさは、住む人の心にしみ込む。自然は大切だが、自然ばかりでは窮屈。今後の不安だ。
- 会 長 都会から見ると、田舎は非常に魅力がある。京都の人は、こんなすばらしいところはないと。一人一人がまちづくりの幸せを感じればいい。便利さだけではない。
- A委員 私はマンションに住むが、匿名の自由があり、そして村の掟がない反面、安全安心の部分は希薄。ただ不自由の中で責任相互扶助が働き、安心の暮らしが一定確保できる。国の調べで、都会人は、ほどよい田舎がいい。群馬県の桐生は、新幹線通勤が多く住宅街だ。長浜も新幹線通勤が可能でポテンシャルはある。でもやっぱり田舎は切り捨てられるから、農村と都市の連携が重要。人生の楽園を求めて都市部から来る人の受け入れ方も。創意工夫でコミュニティーは作り出せる。
- F委員 自治防災組織をつくり、避難場所や住民自体の活動、結いの精神を入れた防災計画、避難訓練を実施。若者と意見交換する中で世代間交流とコミュニティーが生まれた。和歌山のある駅のように野良猫もアイデア次第で活性化できる。
- H委員 地域づくり協議会は、任意団体として住民が頑張る。にしても、行政は予算的な補助や権限を持たせないと、地域を活性化する思いや期待に応えられない。
- D委員 合併はお金がないからするのではなく、合併したらお金を生む努力が必要。余呉は最適の地域で、見捨てず目を向けてほしい。私は、小さな集落だが山奥で頑張れたのは、何でも屋の行政のおかげ。役場に代わる苦情相談窓口が必要だ。
- B委員 年間負担額も、村ならやってもらえる範囲がわかったが都市になればわからない。
- F委員 余呉の豪雪地域にも人は住む。行政としての手の差し伸べ方や少数意見の取り入れ方を検討願う。切り捨てるのではなく。
- 事務局 地域の盛り上がりも期待しているし、当市に切り捨てるという考えはない。
- B委員 あくまで現実を述べたが、分科会では夢を語りたい。ただ、山間部の人たちは意見を述べない人が多い。彼らの本音を引き出すシステムが大切だ。
- A委員 分科会で懇親会を開き、さらに交流を深めてはどうか。
- 会 長 若者の地域への思いやまちづくりへの参加が大事であり、伝統や文化からテーマを探しシンボルをみつけ、それぞれが結束する。
また各地域にはリーダーが必ずいる。リーダーをおくことが大切であり、養成して地域の活性化に繋げることが大切だ。

＝ 次回テーマ及び日程を決定 ＝